

令和 6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773801341		
法人名	医療法人 百賀 時の会		
事業所名	グループホームくすのき苑(杉)		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	羽曳野市古市5丁目5番13号		
自己評価作成日	令和7年1月27日	評価結果市町村受理日	

【事業所基本情報(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)】

https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2773801341-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域との災害時相互支援協定を結んでいる。災害時に地域高齢者の受け入れや3日間分の備蓄食料・オムツ等を備えている。
 ・したい時にしたい事ができる様にあえてタイムスケジュールを決めていない。出来る家事等については無理のない範囲で行えるようスタッフの声掛け・見守りの下で行っている。
 ・スタッフお互いの意見が言いやすい環境作りに努めている。年齢の差や経験年数により意見の違いがあっても情報共有する事でスキル向上に繋げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根ざした医療と介護の提供を目的として運営している医療法人が開設したグループホームです。法人名「百賀 時の会」に込められた「『百』歳まで元気に、生きる『賀び(よろこび)』を感じていただきながら過ごす」の思いに沿って、その『時』をサポートしています。開設時から地域との交流に積極的に取り組み、町内会に加入し地域住民や近隣の保育園との交流があります。どんなに重度の認知症の方でも受け入れ関わってきた実践力からは、職員の認知症ケアの質の高さが伺えます。日常の食事はクックチル(湯煎で温めて提供)を利用し、おせちを始め行事食は手作りで。また毎日、職員が工夫して作るおやつも、利用者に喜ばれています。開設から20年目を迎えていますが、ホーム内は清潔できれいな空気を感じることができます。チームワークのよい職場環境の中、「認知症のもたらず利用者のハプニングも否定しないで笑いに変わる毎日」と楽しそうに語る施設長や職員の言葉に、心安らかに過ごす利用者の暮らしがうかがえるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を作り、朝礼時唱和していたが現在は感染症の蔓延防止のため、フロアに掲示いつでも確認出来るようにしてる。フロアに置くことによって一人ひとり理解を深められるよう努めている。	法人の理念の下で「①お客様との信頼関係を築き、寄り添うケアを行います。②地域に密着し、温もりのあるサービスを行います。③その人らしい生活の援助を行います。④スタッフの熱い想いが活かせる職場を目指します。」の宣言を掲げ、職員間で共有して実践しています。理念は各フロアに掲示し、日常的に確認しています。施設長は、その人らしい生活の実現のために、「利用者一人ひとりの情報の共有」と「どうしたいのか想像すること」の大切さを職員に伝えています。	開設から20年目に入り、令和8年2月には20周年の記念を迎えます。これまでの実践を振り返り、今後に繋げる意味でも20周年記念の取り組みを検討されてはいかがでしょうか。家族や地域のさらなる理解と応援ともなることでしょう。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、地域との交流はできていないが、今後再開を予定をしている。不定期ではあるが、くすのきだよりを発行し地域の広報誌と一緒に配布している。	開設時から地域との交流に積極的に取り組み、町内会に加入し地域住民や近隣の保育園との交流があります。ホーム内には園児たちから贈られた作品を展示しています。町内会の溝掃除には職員が参加しています。だんじりがホームの前に止まった時は涙を流して喜ぶ利用者もいました。3月には地域会館の春の集いに参加する予定です。地域の方に寄贈してもらった大きなひな人形と五月人形の飾りは毎年利用者が心待ちにし、楽しんでます。正月には向かいの方からミカンを大量にもらいました。施設長は地域住民からの応援に感謝し、利用者支援の原動力のひとつにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で、介護や認知症の事で困り事があった場合には、いつでも相談に来て頂ける様、区長へ声がけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	スタッフと家族様、区長などの地域の方と話し合いサービス向上に努めている。有識者には、具体的な対応方法等も含め相談させていただいている。	家族、市職員、区長、民生委員、介護相談員、知見者等の参加で2ヶ月毎に実施し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。会議で地域の行事等の情報を得ることができ、3月の春の集いへの参加を企画することができました。会議はホームからの報告に重きをおくのではなく、参加者から意見が出しやすい場になるよう配慮しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やGH部会に参加し、交流を図っている。また、運営やケア等について疑問等があれば、報告、相談し、助言を頂いている。	市職員からは運営推進会議に出席の際、事業所運営や利用者支援について助言を得ています。市内グループホーム部会にも参加し情報交換をおこなっています。コロナ禍で中止していた、部会での利用者同士の集い「にじの会」も再開が決まりました。市からの介護相談員も受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。フロア入り口については施錠をしているが、利用者の希望に合わせて、スタッフが同行し開錠している。また、研修を実施し、参加できなかった職員には資料配布や伝達を行っている。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回実施し、身体拘束予防について話し合っています。虐待や身体拘束に関する研修も実施しています。また、年に1回セルフチェックを行い個々で振り返っています。ホーム前道路の交通量が多いので、玄関は安全を考慮し施錠していますが、利用者の外出したい様子を察知したら、職員がさりげなく声掛けして付き添うなど、自由な暮らしの支援に努めています。施設長は、職員に関心を寄せ、話がしやすい雰囲気を作りたいと、職員のストレスが溜まらないように配慮して見守っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1年に2回研修を実施している。禁止事項の再確認をし、日々のケアについて振り返る機会を設けている。無自覚での虐待に繋がらないよう、スタッフ同士で声掛けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度について年1回研修を行っており理解を深めている。現在くすのき苑でも成年後見人制度を利用している利用者様がいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分に説明を行っている。家族様より疑問などあった際にはご理解、納得していただけるまで何度も説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。意見があった時には朝礼などで全スタッフ伝え共有する。意見が出たものは可能な限り運営に反映できるようにする。	コロナ禍では面会は制限していましたが、現在は予約制で居室で行っています。職員は、家族が面会に訪れた際や介護計画の作成時には利用者の日々の様子を伝え、家族の意見や要望を聞く機会を持っています。また、近況報告と写真を毎月家族に送付しています。元利用者の家族は、ホームのプランターの花の世話を今でも続けてくれており、利用終了後の家族とのつながりも大切にしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の関わりの中で意見や提案などがあればその都度聞き、出来るだけ反映出来るよう努めている。また会議の中でも提案などがあれば事前に書面にて提出をしている。	毎月の全体会議で、業務連絡・業務改善の検討、利用者一人ひとりのカンファレンス等を行っています。会議以外でも自由に意見が言える雰囲気があります。職員の年齢層が広い職場ですが、お互い分かり合え、人間関係は良好でチームワークのよい働きやすい職場環境は、職員の定着に繋がっています。職員は自分が働くホームを「言いたいことが言える。陰口を言わない職場」と自慢に思っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の中で意見を聴きとり、環境の整備に努めている。非常勤スタッフについては、個々の働ける条件に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月苑内研修を行い、知識を深め実際日々の業務内でも実践につなげている。スキルアップのための資格取得についてはバックアップ制度を整備している。 OJTにて個々の能力に合わせた指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は近隣のグループホームとの勉強会や交流を行い情報交換を行っていた。現在は感染症防止により、現在は交流の機会を自粛している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々コミュニケーションを取り、本人の想いを引き出せるよう努めている。また、スタッフ間で情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安に思っていることや要望があれば随時電話対応などで対応できる体制を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスが必要と判断した場合本人様、家族様と話し合い、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と関りの中で何ができるのか能力を見極め、食事の前にテーブルを拭く、洗濯たたみやお皿洗いなどスタッフと一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には電話やお手紙等で本人様の状態を伝えている。そこでまた要望などがあれば話し合いをし対応をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の知人の面会の受け入れや電話の取次ぎを行っている。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。友だちの訪問があったり、自宅に泊まる利用者もいます。年末年始には複数の利用者が外泊しました。家族と福岡へ10日間旅行した利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様とコミュニケーション、見守りや観察を行い、スタッフ同士で話し合った後、仲の良い利用者様同士近くの席にするなどの対応を行っている。意思疎通が難しい利用者様の場合はスタッフが間に入り孤立するのを避けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、本人様と家族様が不安なことや困っていることがあればフォローできるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に添えられるよう努めている。意思疎通の難しい利用者様には家族様に相談し、生活歴を聞きながら対応している。	ホームの宣言の一つに「お客様との信頼関係を築き、寄り添うケアを行います。」を掲げ、利用者様に寄り添い、思いを聞く姿勢を大切にしています。日常の関わりの中での気づきや発見を職員間で共有することや家族への聴き取りからも利用者様の思いや意向の把握に努めています。施設長は利用者様の思いや意向の把握のために「想像することの大切さ」を職員に伝えています。認知症による様々なハプニングも「否定しないで笑いに受け止め、ここでだからこそ経験できる出来事」と語る施設長や職員の言葉に、認知症への理解と愛情が溢れています。	利用者様の毎日は丁寧に記録されていますが、日常の関わりの中での「発見や気づき」をより丁寧に記録に残されることが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様からは日々のコミュニケーションの中で情報を聴取している。また入所前にはどんな生活をしていたのか家族様から情報をもらい、その利用者様のこれまでの生活、環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援の中で過ごし方、心身の状態、能力など細かく観察をし把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方について本人様と家族、スタッフと話し合いを行い情報を集め、意見など可能な限り反映させ状況に合った介護計画を作成している。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。毎月の会議で利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、介護計画に反映させています。計画の見直しは3か月毎に行い、状態に変化があれば随時更新しています。サービス内容が具体的で、利用者の暮らしぶりが浮かぶ介護計画です。施設サービス計画実施状況一覧表に、サービス内容に沿ったケア内容が書かれ、毎日チェックしています。計画作成担当者は、「利用者が暮らす中で笑顔になれること」に主眼を置き計画作成にあたっています。	
		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記載している。変化や話し合いが必要な事柄については月に1回の会議の中で議題に出し、話し合いを行うことで日々のケアに生かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様と家族様との関わりの中で希望を聞き出来るだけ希望に添えられるよう対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある保育園児との交流会や自治会の行事にも参加している。苑以外の方との関わりを持つことによって日々と違う刺激があり暮らしを楽しんで生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度医師の往診がある。利用者様一人ひとり健康状態を診て頂き、緊急時には24時間オンコール対応を行っている。また専門の病院にも受診ができるよう対応を行っている。	協力医療機関による訪問診療は週1回、訪問看護は週2回です。希望があれば入居前からのかかりつけ医への受診も可能です。眼科の訪問診療や歯科の口腔ケアも全員が受けています。救急急変時も、24時間連絡可能です。法人母体の透析クリニックで週3回透析治療の利用者は、医療機関の送迎バスで通院、職員が同行しています。また、外泊の際にも、宿泊先の医療機関と連携して、無事家族と楽しむことができました。研修会も随時実施しています。感染症対策を振り返り、より良い支援に繋がりたいと考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2度訪問看護師が来苑し健康状態を診て頂いている。来苑時、心身の状態を伝え必要に応じて医師に繋いでもらい指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族、医療機関と密に連絡を取り合い情報、状態の把握ができるように努めている。医療機関からの病状等の説明の時には可能な限り家族様と同席し、退院に向けて支援できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人様と家族様へ緊急時の延命処置について説明を行い、意思確認書を記入頂いている。 重度化した場合については家族様と医師と相談し今後の支援について話し合いをしている。	入居時に、「重度化や、緊急時について」本人や家族に説明し、「意思確認書」を交わしています。 日常生活への影響を考慮してホームでの看取りは行っていませんが、段階に応じて家族と相談、意向確認をし、法人母体の医療機関と連携してそれぞれに最適な対応をしています。重度化時にも五感を大切に、日常生活を感じる事ができる工夫もしています。終末期間際まで、ホームで過ごした利用者もいました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、毎年研修を行っている。対応の方法や救急車の呼び方などを学び、実際起こった時でも焦ることがなく、全スタッフが対応できるよう指導している。マニュアルを作成し、フロアでいつでも見れるよう掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策について研修を行いスタッフ全員が安全な行動・対応について理解するように努めている。また年に2回避難訓練を行っている。	利用者も参加の避難訓練を年2回、内1回は消防署立会いの下実施し、報告書を提出しています。発災時の対応マニュアルを作成、アナウンスの内容は、具体的な言葉を明記しています。「緊急時連絡網」は、関係先別に作成して事務所に吊るしています。町会と「災害時相互支援協定」を結び、地域の災害時の受け入れや、救助支援協力体制を構築、協定書も交わしています。災害備蓄品の保管管理の為に1室を確保し、自然災害用と感染症対策用に分け、品名を添付しています。研修会を実施して報告書も作成しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のかけ方、位置、声のトーンに気を付け日々コミュニケーションを取るよう心掛けています。本人様の人格を尊重しプライバシーを守れるよう配慮しています。	個人の人権やプライバシーを尊重する支援に努めています。一人ひとりの人格を大切にしたい言葉かけに配慮しています。利用者が、「一人になりたい時」の思いを大切にする支援もしています。不適切な対応に遭遇した場合、施設長は、それとなく助言しますが、職員間でも、積極的に声をかけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で希望や要望を聞いている。意思疎通が難しい利用者様はスタッフ間で話し合いをし対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり日々の過ごし方を観察し、ペースを大切にしている。拒否などがあればスタッフを代える、時間を遅らせ対応をしている。できるだけ本人様の希望に添えられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には、出来る限りご自身で衣類を選んで頂いている。髭剃りやヘアセットはご自身でできる利用者様にはして頂いており、難しい利用者様にはスタッフがお手伝いさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きやコップにお茶を入れるなど、利用者様の能力を見極めて可能な方にはお手伝いして頂いている。行事食には季節や行事を感じて頂けるようにしている。	3食共、主菜副菜は業者のクックチル(湯煎で温めて提供)を利用、主食と汁物は職員が調理して、利用者の口腔機能に合わせた食事形態で提供しています。一日の3食のメニューを分かりやすく掲示し、メニューの説明をしつつ、安心して食事ができるように支援しています。利用者はテーブル拭きなど、出来る事を手伝います。毎日の手作りのおやつは、楽しみの一つです。また行事食を工夫し、お正月は職員手作りのおせち料理で祝います。見た目を大切にカラフルに盛り付けした料理は食の楽しみに繋がっています。屋上でのバーベキューや茶話会を楽しんでいましたが、現在は中止しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分摂取量は毎日記録している。 食事形態について一人ひとりの能力に応じて、細かく刻む、ミキサーにして少し固めるなど対応を変え安心して食べて頂けるよう支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き行い、口腔内の清潔保持に努めている。週に1度歯科衛生士が来苑し口腔ケアをして頂いている。その際、利用者様の口腔内の状態を伝え、必要であれば歯科医師に診て頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターン把握のため、排泄表を記入している。オムツやリハビリパンツ、布パンツにパットだけの方など一人ひとりに合わせた物を着用して頂いている。可能な方にはトイレにて排泄が出来るようトイレ誘導を行い排泄を促している。	介護度が高くなり、紙パンツやオムツ着用の利用者が多くなっていますが、座位保持可能の利用者には、排泄パターンを把握し、それとない声掛けで、トイレ誘導をしています。夜間は随時オムツ交換をしていますが、睡眠の妨げにならないように、個々のリズムに合わせて対応しています。広いトイレが3か所あり、分かりやすく表示しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を使い何日排便がないかを確認している。便秘気味の方には牛乳等を提供、腹部をマッサージするなど対応をしている。それでも排便がない方は医師に相談し便秘薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を聞いてから入浴して頂いている。入浴の拒否があれば理由を聞いて原因を取り除く。入居前から使用されていた好きなシャンプーやボディソープ使っていただき、気持ちよく入浴して頂けるよう努めている。	入浴は、週2回、午前・午後を選ぶことができ、曜日や時間を決めず、柔軟に対応しています。オイルヒーターやハロゲンヒーターで、ヒートショック予防の対策をし、家庭的な浴室には、滑り止めマットを敷き、手摺りやシャワーチェアを備えて安心安全に入浴することができます。好みのシャンプーやボディソープを使う利用者は多く、浴室に個々のシャンプーを並べ、入浴介助に取り組んでいます。一人の利用者とゆっくり関わることができる入浴時間は、より深い理解を得ることができる大切な機会となっています。無口な利用者がよく喋ったり、鼻歌を楽しむ利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は傾眠されている方がいれば居室にて少しの時間休んで頂いている。夜間の就寝時間などは指定せず、好きな時間に居室にて休んで頂いている。電気は付けたままが良いという方などその方にとって安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情のファイルを作っており全スタッフがいつでも確認できるようにしている。変化があれば医師に相談している。追薬があれば必ず確認するよう指示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりの能力をみて、スタッフと一緒に洗濯物をたたむ等役割を持って頂いている。気分転換に屋上庭園で日光浴をしたり、ティータイムを楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換にお不動さんに散歩に行っている。現在、外出は出来ていないが、今後希望を聞き、個別外出の実施を考えている。	外出の機会を徐々に取り戻しつつあります。外気浴を兼ねて、近くのお不動さんへのお参りや、河川敷での散歩をしています。ベランダで、家族との会話も楽しんでいます。利用者の介護度が上がる中、一人ひとりに沿ったレクリエーションを提供できるように工夫しています。インストラクターによる体操を週1回実施、機能保持に努めています。地域の行事参加など、外出の機会を増やしていきたいと考えています。	下肢筋力の低下予防の為に、今後は外出の機会を増し、閉塞感のない暮らしができることを期待します。「行事実施計画書」の中に、「外出」などの項目を設け、利用者毎の様子や気付きを記録されてはいかがでしょうか。より良い支援に繋がる事を期待しています。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望があれば、スタッフと一緒に買い物へ行き、購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が希望したとき電話やオンラインで家族様と通話できるよう支援している。携帯を所持されている方もおり、好きな時に電話をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや居室は寒暖差にも気を付け温度管理を徹底している。利用者様が集まるフロアには写真を貼り、また季節が感じられるよう飾り付けをしている。	玄関までの長いアプローチには、幾つものプランターの花が楽しめます。掃き出し窓から射す陽が明るいいリビングは広く、キッチンで調理する職員の姿を見ることが出来ます。幾つものテーブルの横には、複数のソファを設え、テレビを見たり、利用者同士、語らいを楽しんだりしています。季節の飾り物や、利用者の写真、利用者の願い事が書かれた短冊、保育園児から贈られた貼り絵も掲示しています。1階の壁面には、大きな木のオブジェが施され利用者は季節毎の花を飾り、楽しめます。日常の暮らしに配慮し、心地よく過ごせる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに2つ、廊下に1つソファがあり定席以外にも座る場所を用意している。また気の合う利用者様同士席を近づけるなど工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた馴染みの家具などを置いて頂いている。物の配置にも配慮し居心地よく過ごして頂けるよう努めている。	花の絵が添えられた表札は分かりやすく掲げられ、元英語教師の利用者には、アルファベットで表示もしています。居室にはベッド、クローゼット、洗面台、エアコン、カーテンを設置、利用者は馴染みの物を持ち込んでいます。仏壇、使い慣れた小物入れ、テレビを備え、家族の写真を掲示した部屋もあります。机の上に、詩集や日記帳を置く利用者もいます。危険なもの以外、持ち込みは制約せず、安心して過ごせる居室作りを大切に支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは一緒に行く、出来ないことは介助を行う、また出来ることを維持できるようにスタッフが無理に手伝わぬよう心掛けています。フロアや居室は動線に配慮し工夫をしている。		